



7つの商店街の足並みを揃え難しい街路事業を実現化するためには、地域住民へのPRと併せて商店会役員の心を一つにする必要があった。そのため的一大イベントとして企画された「竹灯籠まつり」は、布多天神の境内に竹灯籠を並べ、赤々と燃える幻想的な灯りの中で、ジャズの演奏を行い地域住民との一体化を図ろうとするイベントである。

このまつりのクライマックスは、各商店会役員が神官の白い装束をまとい、調布の名前にゆかりのある「布」を布多神社に奉納する催事であった。7つの商店街の結束を誓うという意味からも大きな成果をあげることができた。

保田の宝 夢灯り

南房総の保田には、美しい海、鋸山、見返り美人の里などたくさん観光資源に恵まれている。しかしながら近年、海水浴客の数も減り、保田駅前通り商店街も、周辺の大形店の影響もあり、商店数は往年の三分の一まで減少し、一二店を数えるほどである。

こんなちいさな商店街でも、もともと地域の人たちに関心をもってもらおうと、保田の宝夢灯りのイベントを開催することになり、筆者も企画段階からお手伝いさせていただいた。地元の保田幼稚園や保田小学校の園児・児童に保田の宝

をテーマに絵を描いてもらい、その数は四〇〇枚以上になった。初代歌川広重が愛した富士三十六景のうち「房州保田海岸」の富士山、浮世絵の祖、菱川師宣の代表作「見返り美人」、夏目漱石が海水浴をした保田の海、日本三大産地のスイセンなどが描かれている。この四〇〇枚の絵をラミネートし、筒型に丸め、この中にロウソクをともし、行灯はできあがる（制作費は一ケ三〇円弱）。店先に並べた夢灯りとは別に、店内には、動物をモ



チーフにした「店灯り」を灯し、子供たちのために店灯りの中に隠れている動物を発見するラリーを行った。この企画は、少しでも地元のお店を知ってもらおうとする試みであり、数多くの子供たちが参加してくれた。

このイベントの成功は、鋸南町商工会女性部、クジラ食文化研究会、ドリームKなど地域を愛するたくさんの方々の個人や団体の方々の協力のおかげでもある。子供たちにとっては自分の描いた保田の宝が行灯になり、その中で地元の商店街の皆さんと楽しいふれあいができたことは大人になっても忘れることのできない温かい思い出となるような気がする。

連携イベントが作り上げる安全・安心の社会

街づくりには連携イベントと共に、「安全・安心の仕掛け」が欠か

せない、と考える人が多い。秋葉原で起きた通り魔のような理由なき犯行が増えている。安全な社会や街には、人々が意見交換できる「コミュニティの場」があるといわれている。安全をつくるのは監視カメラではなく、地域のコミュニティともいえる。

この意味でみんなで作る灯りイベントが、生活文化の向上ばかりでなく「安全・安心」の街づくりに役だっているのである。灯りによって人々の心に豊かさをもたらすし、子供も若者も老人もさらに孤立化している人々も地域社会に引き込まれるようになれば、安全な社会をたいしたコストをかけずに築き上げることになる。これは経済的に見ても大いに割に合う仕掛けといえそうである。



(中小企業診断士 大塚慎二)

「イベント」の目

〈共生の街づくり いろいろ 経済学〉 みんなでつくる 灯りイベント

北欧の灯り

冬が長くどんよりとした天候の続く北欧の国々では、「灯り」を大切にしている。デンマークやスウェーデンの家の灯りは日本人の目から見ればかなり暗く、いまでもロウソクを大切にしている。部屋の灯りは蛍光灯をきらい基本的に間接照明で、白熱灯の暖かい光が照らす。天井からぶら下がっている灯りでも、何枚かの羽で白熱灯を直接見せないような工夫を凝らしている。もちろん、それだけでは部



屋が薄暗いので、テーブルの上やソファの手元には、スポットライトを使用し、窓辺やテーブルの上にロウソクを置き、楽しむのである。

冬の長いこれらの地域では太陽に最も近いといわれる光源、つまり白熱灯やロウソクの灯りに穏やかさと温もりを感じているのかも知れない。

連携イベントの必要性

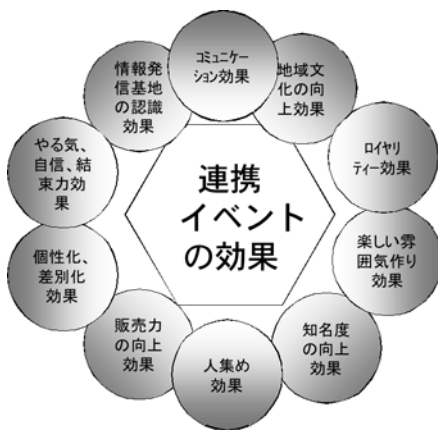
北欧の灯りのように、人々の心をやさしくつるぎや温もりを与えるような商店街の活動が求められている。それは商店街が単なる買い物の場ではなく、情報提供や地域のコミュニティ・交流の場、地域の歴史や文化、まちづくりの担い手になることを意味している。

商店街のイベントとは、商店街が仕掛け人となって人々を引き寄せる話題づくりの催物といえる。つまり、商店街にとってのイベントは、

お客の増加、売上の増加という直接的、短期的な効果を狙いとするよりも、地域住民とのふれあい、地域文化の向上を目指す間接的、長期的持続的効果に力点を置くようになってきている。

イベントには商店街で行うものと、外部の協力を得て行うものがある。

費用や人手の問題を考えると、商店街で何でも行うことには限界があり、これからは連携イベントを考えるべきである。連携イベントには、商店街が仕掛け人となり、場所の提供や費用を負担しても一部にとどめ、イベントを行いたい人や団体・事業所等に任せる方法もある。それは、人脈ネットワークを活かし、地元住民などを巻きこんで開催するものである。こうした商店街が何らかのかたちで関与し、地元住民、関係団体・事業所と連携するイベントは、地域ぐるみの生



活文化の向上に役立ち、さまざまな効果を生み出すといえる。

調布の竹灯籠まつり

筆者が街づくりのお手伝いをした調布の竹灯籠まつりをご紹介します。京王線調布駅北側の旧甲州街道には、7つの商店街が連担して商業地を形成している。旧甲州街道は歩道幅員が1.8mと狭くセツトバックによる街路整備の計画がある。